

茶道の家元である表千家（不審菴）や裏千家（今日庵）、武者小路千家（官休庵）の建ち並ぶ小川通の周辺は、全国から修業のために来訪した和装の人々が行きかい、華やかな雰囲気をかもし出している。また、風情ある茶道家の表構えは、日本的な美の世界である茶の湯のもてなしの心を自然に感じさせる。この小川通りはかつて小川が流れていたところで、表千家、裏千家、武者小路千家の三千家が小川通りに面しているのは、良質の地下水がわくためであったと言われる。ここでは、茶の湯を手掛ける人々の日常の姿があり、行きかう和装姿の人々や、茶道具店に並べられた道具類もまた、町並みに風情を与えている。三千家とは場所が離れるが、藪内家（燕庵）は、世界遺産に登録されている西本願寺の東に位置し、その構えは本願寺界わいの風情を醸し出す一つの重要な要素となっている。

このように、京都の歴史的な寺社等において行われる茶会等の営みとそこに集う和服姿の人々の営みが、寺社等の歴史的建造物やその周辺の町並みと一体となって、静寂で落ち着いたある情緒を醸し出している。そして、小川通をはじめとする茶道家元の並ぶ町並みにおいて、茶道に関わる人々の日々の生活、茶道具等を扱う営みが、茶の湯の本山である京都の歴史を感じさせている。

※1 武野紹鷗の鷗の表記は「メ」が「品」となっているのが正式である。



写真2-87 茶会の後



写真2-88 小川通の町並み



図2-56 三千家と藪内家